

【南九州税理士会会長賞】

身近な災害と税金

熊本県立宇土中学校

二年 福山 瑚乃香

私たちの周りには、災害という危険があります。特に水害。津波や洪水など、いつ起きてもおかしくありませんでした。

私は今年の夏、大雨による洪水で被災しました。家の中に水が入り込み、一階がほとんど浸かってしまいました。

その3日後、保健所の人が2人、家のことについて話しに来ました。その内の1人が私に、税について4つの事を教えてくれました。

1つ目はハザードマップの作成に税金が使われていることです。災害時の避難場所や災害規模を教えてくれるハザードマップ。これを作るのに税金が使われているそうです。

2つ目は災害後の道路や水道の補修工事に税金が使われていることです。そのおかげで災害後すぐに修理をすることが出来るそうです。

3つ目は河川の堤防工事です。私の家の近くには川があります。その川が氾濫するのを防ぐために作られた堤防。減災や防災の役割を果たします。その堤防の建設にも税金が使われるそうです。

4つ目は消防など救助についてです。税金のおかげで災害時に対応でき、多くの人の命を救うことが出来るそうです。

保健所の人は「税金は私たちの安全を守ってくれていて、災害が起こる前の備えと、災害が起こった後の支援もしてくれているよ。だからこそ税金を納めることは大切だよ。」と言っていました。私は、税を納めることの大切さを知ることができました。

このように、税金は私たちの身近にあり、私たちの生活を支えてくれています。

まず、税金は災害が起こる前の備えと、起こった後の支援という2つの面から私たちの暮らしを支えてくれています。

次に、私たちの払っている税金は、ただの支払ではなく、いつか、誰かのために、そして未来の私たちの安全を守るために必要です。

更に、税金は私たちの暮らしを守ってくれる盾のような存在となっていて、家庭や団体ではすることの出来ない修復や工事なども税金があることによって、社会全体で支え合いながら、暮らしをよりよくしていくことができます。

税金が使われているものは私たちの生活にたくさんあり、それぞれが私たちの生活を支えてくれています。これらのことをしっかりと理解して、私も税金をちゃんと支払っていききたいし、税について今回知ったことを周りの人たちに広めて、税の大切さをより多くの人に知ってもらいたいと思いました。